

遙かなる水平線を眺め
夢を抱いた先達の軌跡をたどる

横芝光町人物事典

横芝光町は多くの偉人を輩出したまちです。
ここでは日本の歴史にその名を留める5人の偉人を紹介します。

地図の人物、青年期を過ごす 伊能忠敬 いのうただたか

延享2年（1745）〜文化15年（1818）

日本で初めて実測による正確な日本地図「大日本沿海輿地全図」を作製したことで有名な伊能忠敬は、青年期を横芝光町で過ごしました。このとき培われた好奇心や知識欲が、50歳を超えてもなお学問を志し、勉学のため江戸へ上り、天文学の書物を読み漁り、日本地図の作製という偉業を達成



忠敬肖像画（千葉県香取市 伊能忠敬記念館所蔵）

する原動力となりました。

忠敬は九十九里町でいわし漁の網元をしていた小間家の次男として生まれました。そして11歳のときに父貞恒の実家で酒造業を営み名主を務める名家、神保家へ移ります。この神保家が建っていた場所が横芝光町小堤です。貞恒は私塾を開くほどの教養人で、幼い忠敬は父から学問や算術の基本



伊能忠敬成長の処の碑（小堤）



伊能忠敬の父貞恒生活の処の碑（小堤）

を教わりました。

現在神保家の跡に「伊能忠敬成長の処」、父貞恒の建てた分家前に「伊能忠敬の父貞恒生活の処」という記念碑が建てています。

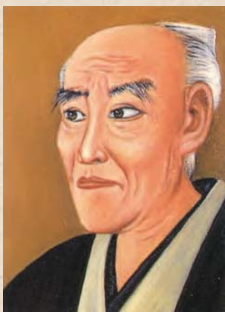
錚々たる人物を育てた儒学者 海保漁村 かいほぎよそん

寛政10年（1798）〜慶応2年（1866）

海保漁村は江戸末期の儒学者。22歳で江戸に出て幕府の御殿医の内弟子になり、27歳のとき江戸下谷に掃葉軒という儒学の私塾を開きました。門下生には今に続く政治家の始祖鳩山和夫や、近代日本の経済基盤を創りあげた実業家渋沢栄一らがいます。46歳で佐倉藩の藩校成徳書院で儒学を講義し、その後60歳で幕府医学館の儒学教授となり多くの学生を指導しました。

漁村は横芝光町北清水に生まれました。父は医師であり寺子屋の師匠だった海保修之。四人兄弟の末っ子で幼名を彦三郎、通称を章之助としました。

幼少期の漁村は父の寺子屋で毎日講義を静かに聞き、5歳のときには父の教えた漢文の詩を暗記するほど記憶力に秀でていました。7歳になると本格的に学習を始め、暇さえあれば正座して読書に励み両親が健康を心配するほどでした。勉強ばかりしている漁村を休ませるために修之は遠くの村へ使いに出しますが、漁村は早く勉強したいと三里、五里の道を駆け足でまわり、帰宅後直ちに机に向かうありさまでした。現在北清水の生家跡には海保漁村先生誕



海保漁村肖像画



海保漁村先生誕生之處の碑（北清水）

快記録をつくった横綱

初代 小錦八十吉 こにしきやそきち
慶応3年（1867）〜大正3年（1914）

優勝7回を誇る第17代横綱小錦八十吉は、小料理屋兼お茶屋の岩城屋を営み、土地相撲の大関だった岩井弥市の長男とし

ほどの重要人物です。芳子は匠達郡南条村字芝崎（現在の横芝光町芝崎）の地主、岩澤家に生まれ、通常は7歳から通う芝崎小（南条小）に5歳から通い始めました。

ある日、先生におぶわられて学校の裏山から二人きりで海を眺めていました。「あの海が太平洋だよ。太平洋の向こうにはアメリカという大きな国がある。私もアメリカに行つて偉くなりたい」という先生に「私もアメリカへ行きたい。偉くなりたい」と応える芳子。「そうとも、勉強してアメリカへ行きなさい」

この時から芳子に目標ができました。偉くなるには学校に行かなくてはならないと考え千葉高等女学校へ入学し、その後女性初の職員として鉄道省に2年勤め、次いで東金の大富小学校の先生として3年働きました。そして満を持して母へアメリカへの想いを打ち明けたところ、母は「行つておいで、芳子なら何か勉強して来るだろう、おまえを信じているよ」と快く送り出してくれました。この時芳子はまだ数え二十二年という若さでした。



杉野芳子、初めての洋装写真

たのち帰国して、大正15年にドレスメーカー学院を、さらに短期大学・大学も開設。日本を代表するファッションデザイナー・教育者として服飾文化の花を大きく咲かせたのでした。

日本ソーセージの父 大木市蔵 おおきいちぞう

明治28年（1895）〜昭和49年（1974）

日本のソーセージの父と称される大木市蔵は、明治28年千葉県匠達郡東陽村に生まれました。14歳で遠縁の高橋清七が社長を務める横浜の食肉加工販売会社「江戸清」に就職し、そこで元コックのドイツ人マリーテン・ヘルツと出会い、ソーセージの製造技術を伝授されました。大正9年に合名会社大木ハム製造商会を開業し、ソーセージ、ハムの製造・販売を開始するかわら、東京帝国大学駒場畜産研究会で講師を兼任

し、昭和13年には群馬高崎ハムを設立、昭和21年に横芝光町宮川の東陽村産業組合直営工場を譲り受け、大木ハム千葉工場を設立しました。その後も、全国各地で食肉加工講習会、技術指導にあたりるとともに多くの弟子を受け入れ、後年には一般社団法人日本食肉加工協会の理事を長年にわたって務め、日本農林規格（JAS）の制定に携わるなど、日本の食肉加工技術の発展とハム・ソーセージ等の製造の普及に尽力しました。



昭和26年頃のハムハム千葉工場（前列右から2人目が大木市蔵）



若き日の大木市蔵



大木市蔵の胸像。昭和38年、横浜元町厳島神社内に建立された。現在は横芝光町の生家に移転

て、琴平神社に近い横芝光町上町に生まれました。弥市は八十吉を力士にしたいと願っていたので、佐倉へ巡業に来ていた旧知の高見山宗五郎に頼んで弟子にしてみました。一度は厳しさに耐えかね上町に逃げ帰りましたが、父の激励を受け高砂部屋に再入門し稽古に励み、入幕以来大関になるまで一度も負けないという快記録をつくりました。



初代 小錦八十吉の墓（横芝）

日本女性の洋装化を拓く 杉野芳子 すぎのよしこ

明治25年（1892）〜昭和53年（1978）

ドレメ式洋裁の開発者、杉野芳子は日本人の服装を和服から洋服に変え、洋服にデザインという付加価値を与え、既製の品質・流通の現代化に貢献した人です。彼女抜きには日本のファッション史は語れない

【若手演者インタビュー】



伝統の舞台に立てることが
誇らしい
鬼婆の演者・伊藤健さん

若手演者の一人、伊藤さんは結婚～虫生地区への転居を機に、4年前から鬼来迎を演じるようになりました。転居後、地区の人に言われたのが「ここに住んだら、やるんだよー」の一言。そして与えられたのが鬼婆役。「婆さんなので機敏に動いたらおかしい。でも、一方で鬼なので力強く、荒々しくなければならぬ…。そのあたりが難しいのですが、先輩方が指導してくれるので、何とか演じられるようになりました」と伊藤さん。平成27年には4歳のお嬢さんが「賽の河原」の初舞台を踏み、親娘共演もできた。「僕自身、この伝統のある舞台に立てるとはとても誇らしいし、地域の人と一緒に活動できるのが嬉しい。とにかく後世に伝えていきたいですね」と話します。

祖父・父・自分：
そしてわが子へ

俱生神の演者・深田正実さん



一番の若手演者が深田さん。平成27年の舞台の際は24歳でした。「祖父が俱生神をやっていた小さい頃から見ていました。その祖父が、一昨年に他界し、役回りが自分に回ってきたのです」と深田さん。虫生地区の生まれ育ちで、4～5歳の頃から小学5年の頃まで、賽の河原の子ども亡者を演じていました。お父さんは観音菩薩役で今も舞台に立っています。「ここ虫生地区に若者が少ないのが気がかりです。とぎらせられない。とにかく継承していきたい」と話す深田さんは長男。結婚し、男のお子さんを授かりました。まだ1歳未満ですが、将来の継承者の誕生で深田さんの演技にも力が入ります。



当日の朝、保存会の皆さんで舞台設置



いよいよ鬼来迎の始まり。境内は大勢の人で埋め尽くされる

厳かに「舞台清め」



【大序】での閻魔大王(右)と俱生神(左)



【賽の河原】。地藏菩薩が子どもの亡者を救い出す



【釜入れ】。黒鬼、赤鬼が亡者を釜に入れ入れる



【死出の山】。観音菩薩が現れて、亡者を救い鬼と問答を交わす



鬼婆が赤ちゃんを抱く【虫封じ】は毎回多くの希望者で賑わう



全国で唯一の古典的仏教劇

鬼来迎

(国指定重要無形民俗文化財)

地獄の釜が開くとされる月遅れの盆の8月16日。広濟寺では施餓鬼会が終わると、大勢の観客が待つ本堂右手に設えられた舞台に、鑼鉢の音と「ホッホッポ」の奇声が突然響きわたります。「鬼来迎」の始まりです。
「鬼来迎」は、因果応報、勸善懲惡を説く古典的仏教劇で、その起源は鎌倉時代初期にまで遡るといわれています。昭和51年には国の重要無形民俗文化財の指定を受けています。かつては近隣でも同様の「鬼舞」が行われていましたが、今でも続いているのは広濟寺だけになりました。
演者はもちろん、舞台の設定から衣装整備まで、すべてを広濟寺が建つ虫生という農村集落の人たちだけで行います。平成3年には東京国立劇場でも上演され「これは素人の芸ではない」と多くの人々を驚愕させました。
劇は地獄の責苦を骨子とした「大序」「賽の河原」「釜入れ」「死出の山」の四段と、広濟寺建立縁起を物語る「和尚道行」「墓参」「和尚物語」の三段の全七段からなりますが、現在では広濟寺建立縁起の三段は上演されません。
「大序」の場面で行われる「虫封じ」では、登場する鬼婆に赤ちゃんを抱いてもらうと健康に育つ、という言い伝えがあります。
八百年以上も命を繋ぎながら続く仏教劇。広濟寺を中心とした虫生の共同体が守り続けているものを、蝉しぐれの中で感じてください。

Japan's Only Surviving Classical Buddhist Drama **Kiraigo**
A Designated Important Intangible Cultural Property

On August 16, the annual performance of Kiraigo will be put on on a stage built at the right-hand side of the main hall of Kosajji Temple. A large audience is always in attendance. Kiraigo is the only surviving classical Buddhist drama in Japan, and it is believed to date back to the early Kamakura period. In 1976, it was designated an Important Intangible Cultural Property of Japan. Similar performances of the demon's dance were performed in the vicinity in the past, but it is only this one at Kosajji Temple that has survived through to the present day.



ぎらぎらと照りつける陽射しとせわしない蝉の声。
今日は八月十六日。一年に一度だけ仏教劇が演じられる日。
その劇の名は「鬼来迎」

縄文海進の時代は中台と小田部周辺の高台以外は海の下に沈んでいた横芝光。海面の低下につれて次第に各地に人が集まり、漁や農耕に適した土地で豊かな生活が営まれました。やがて武士が誕生すると城や寺が築かれ、今に続く民俗芸能も生まれました。悠久の時の流れの中で今を暮らす私たちも、貴重な歴史遺産を次世代へと引き継いでいきたいものです。



広済寺の鬼来迎面(虫生 広済寺)

「鬼来迎」上演の際に用いられた面(13面)です。13面のうち、鬼婆(奪衣婆)・黒鬼・赤鬼の3面は、能面風というよりも伎楽面・行道面風で、鬼来迎が初めて演じられた当初に作られたものと伝えられています。制作年代については、室町時代までは遡ると推察されますが、正確には不明。一方、残りの10面は、おおむね江戸時代のものと推測されます。ちなみに、現在使用しているのは、3代目にあたる面で、昭和50年代初頭に2代目の面のうち8面(塩ふり4面のうち2面を除く)を複製し、また地蔵面1面を新たに制作して加えた計9面です。



殿塚



姫塚

中台(芝山)古墳群(中台)

古墳時代の武烈国造時代に作られた、中台に残る2基の前方後円墳。殿塚は直径86m、姫塚は58.5mあり、殿塚は山武地方最大の墳丘墓とされています。人物埴輪が大量に出土したことで有名です。



木造薬師如来立像(宮川・古屋薬王院)

全体的に古樸な姿で、重量感もあり、平成24年の修復のとき、胎内から平常秀銘が発見され、鎌倉時代初期の作であることが判明しました。像高は163cm。



銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像(小川台・隆台寺)

中尊の阿弥陀如来像は、高さ48.5cm、両脇侍像は高さ30.5cmの鍍銅製。三尊とも、衣文の形など細部まで形状が明瞭で写実的な作風から、鎌倉時代の中期から後期に制作されたものと考えられています。



銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像(篠本・新善光寺)

中尊の阿弥陀如来像は、高さ46.2cm、左脇侍像は高さ30.1cm、右脇侍像は高さ30.5cmです。中尊の裳裾背面と両脇侍の台座に「弘實」と刻名がありますが、年号はありません。引き締まった頬や衣文の表現から鎌倉時代の中期から後期の造像と考えられています。



浅間神社の森(古川)

標高約20メートルの丘陵地にうっそうと茂るスダジイの林で、なかには樹齢数百年にもおよぶ大木も見られます。市街地に残された自然林の性格強いスタジイ林として、学術的にも貴重な存在です。



町原大銀杏(木戸台)

樹齢500年と推定される銀杏で幹まわりは約6.5mです。根元に垂れるきれいな形の「樹乳」は、女人信仰の対象ともなっています。



木造阿弥陀如来坐像(木戸・辻観音院)

像高は53.3cmで、平安時代末期の11世紀後半から12世紀前半の作品と考えられています。像内や像底に修理銘があり、何度が修理されていることが記録されています。

横芝光町指定文化財一覧

町内には、国指定重要無形民俗文化財「鬼来迎」、国指定史跡「芝山古墳群」をはじめ、県指定史跡「海保漁村誕生之處」など県指定文化財、町指定文化財の指定文化財があります。

区分	種類	名称	所在地
国指定	重要無形民俗文化財	鬼来迎	虫生
国指定	史跡	芝山古墳群	中台
県指定	有形文化財(彫刻)	木造薬師如来立像	宮川
〃	有形文化財(彫刻)	銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像	小川台
〃	有形文化財(彫刻)	木造阿弥陀如来坐像	木戸
〃	有形文化財(彫刻)	銅造阿弥陀如来及び両脇侍立像	篠本
〃	有形民俗文化財	広済寺の鬼来迎面	虫生
〃	史跡	海保漁村先生誕生之處	北清水
町指定	有形文化財(建造物)	屋形四社神社本殿	屋形
〃	有形文化財(建造物)	屋形四社神社狛犬	屋形
〃	有形文化財(建造物)	屋形四社神社御手洗	屋形
〃	有形文化財(建造物)	屋形無量寺六地藏	屋形
〃	有形文化財(建造物)	庚申塔	中台
〃	有形文化財(彫刻)	阿弥陀三尊	宝米
〃	有形文化財(考古資料)	明光院版碑	宝米
〃	有形文化財(考古資料)	隆台寺板碑	小川台
〃	有形文化財(考古資料)	宗龍寺板碑(3基)	台
〃	有形文化財(考古資料)	不動院板碑	木戸
〃	有形文化財(考古資料)	永享寺板碑	宮川
〃	有形文化財(考古資料)	虫生路傍板碑	虫生
〃	有形文化財(歴史資料)	海保漁村誓書	横芝
〃	無形民俗文化財	熊野神社神楽	宮川
〃	無形民俗文化財	鳥喰下大神楽	鳥喰
〃	無形民俗文化財	谷中稲荷神社獅子舞	谷中
〃	無形民俗文化財	中台獅子獅子	中台
〃	無形民俗文化財	屋形四社神社里神楽	屋形
〃	史跡	横綱小錦八十吉の墓	横芝
〃	史跡	有照法印入定塚	小川台
〃	史跡	成田山御本尊不動明王御上陸之地	尾垂
〃	天然記念物	榎の木	篠本
〃	天然記念物	椎の木	新井
〃	天然記念物	いぬ横	宮川
〃	天然記念物	町原大銀杏	木戸台
〃	天然記念物	榎の木	台
〃	天然記念物	大杉	宝米
〃	天然記念物	浅間神社の森	古川